

平成 29 年度 白梅学園 事業計画

はじめに

当園(乳児院・児童養護施設)は、天理教教理に基づいて設立された児童福祉施設である。すなわち、天理教初代真柱中山眞之亮が提唱した「人の子も我子もおなしこゝろをもて おふしたてよ このみちの人」を基本理念に事業運営する。

現在の白梅学園で生活する子どもたちの入所理由は、虐待の中でもネグレクト(育児怠慢や養育放棄)の割合が7割を占めている。またこれとは別に、親の貧困問題が少なからず子どもたちの心に影を潜めていることも忘れてはならない。したがって私たちは基本理念に徹して、日々子どもたちの心に寄り添いながら生活支援にあたり心理的ケアに心血を注ぐほか子どもたちの社会的自立を支援していかねばならない。

そこで、平成 29 年度は、基本理念を踏まえつつ児童相談所等の関係機関と緊密な連携を取りながら、以下のような事業を展開していきたい。

1. 全 般

①子ども・職員に対する信条教育について

子どもたちには、天理教少年会および学生会活動を中心に、地域社会とも協働しながら情操教育を図っていく。また、職員に対しては、天理教の教えを深める活動を実践すると共に教理に沿った信条教育を行っていく。

②職員の資質向上について

職員の資質また児童処遇向上のために積極的に研修会に参加させ、その成果を還元させるために事後報告会を充実させる。

③小規模施設に対応するための白梅学園建築について

一昨年初に福井県より福井県版家庭的養護推進計画が示され、当園においても本年度施設(乳児院・児童養護施設)の全面改築工事を進めることになった。また昨年4月より地域小規模児童養護施設(定員6名:女子)を開設したが、本年度4月より2カ所目の地域小規模児童養護施設(定員6名:男子)を開設する。

④舊舎乳児院・晴喜館児童養護施設・児童家庭支援センター白梅の連携について

当園の特徴である養育の継続性をこれからも重点的に行うと同時に、児童家庭支援センターの役割機能を踏まえて、お互いの連携を強めていく。

⑤地域、関係機関との連携について

地域から信頼される施設として、様々な会合に積極的に参加していく。またこれまで通り、

児童相談所から安定的な子どもの入所を得られるよう信頼されうる施設として努力していく。

⑥原子力防災計画等の策定について

福井県の原子力防災計画では、乳児院は福井県済生会乳児院へ、また、児童養護施設については和敬学園に避難することになっている。また、重大気象等事案については、敦賀市当局と協議しながら避難計画を立てていく。

⑦疋田の家について

疋田の家については、小規模ケアを訓練する場所として活用する。

2. 法人

法人が運営する3施設の充実を図る。

※3施設の事業計画については、「事業計画・事業報告」を参照。